

## EDTA 依存性偽性血小板減少症が疑われた受診者の方へ

### 臨床研究における採血残余検体提供のお願い

大分県厚生連鶴見病院（兼）健康管理センター中央検査部臨床検査科では、上記に該当される方の採血の残余検体を利用して、臨床研究を行います。研究の内容については当院の臨床研究倫理審査委員会にて許可されております。本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合、または研究について詳細にお知りになりたい場合は下記研究責任者までお問合せください。

#### 【研究課題名】

クロロキン製剤が血液分析装置のスキャッタグラムに及ぼす影響の検討

#### 【研究責任者】

大分県厚生連鶴見病院（兼）健康管理センター中央検査部臨床検査科 曾我泰裕

#### 【研究の対象となる方】

EDTA 依存性偽性血小板減少症が疑われた方

#### 【研究の概要】

血液検査では EDTA 採血が標準的に使用されていますが、EDTA の存在下で血小板が凝集してしまう EDTA 依存性偽性血小板減少症(EDP)が稀に存在し、見かけ上血小板数が偽低値となってしまいます。その対策として、異なる採血管で再採血する方法、または血小板凝集乖離剤(硫酸マグネシウムやクロロキン製剤)を添加し血小板凝集を乖離させる方法があり、当院は再採血が無いよう血小板凝集乖離剤を使用しています。

一方で、当院の血液検査装置(シスメックス社)には、数ある測定方法の 1 つに血球成分を染色し定量化する方法があります。しかし、血小板凝集乖離剤添加血においてはその染色性が変化し、正確な値が得られない事が分かりました(実際の結果報告値は他の方法を使用しており問題ありません)。

そこで、シスメックス社と共同で、採血残余血を利用しその要因を検索することを計画しました。

#### 【研究の意義】

血小板凝集乖離剤を使用した場合の血小板数偽低値の原因を検索し、正確な検査結果値を報告できることに寄与するものと考えます。

**【研究（調査）の方法・期間】**

方法は、対象となる方の採血残余検体(血小板凝集乖離剤添加血も含む)をシスメックス社と共有し、臨床情報(測定検査データ、蛍光顕微鏡・電子顕微鏡結果等)を収集し検討します。

研究期間は、大分県厚生連鶴見病院（兼）健康管理センターにおける臨床研究倫理審査委員会の承認日から1年間です。

**【個人情報に関する配慮】**

連結可能匿名化を行い、対応表は鍵のかかる庫で保管します。得られた結果は、学会や医学雑誌に発表されることとなりますが、研究の結果を公表する際は個人が特定できないようプライバシーに配慮致します。

**【患者の利益と不利益】**

採血残余検体を使用しますので再侵襲も無く、本研究に参加することによる患者さんの利益、不利益はともにありません。

研究の趣旨を御理解いただき、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。もし、本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合は以下にご相談ください。

**【お問い合わせ先】**

〒874-8585 大分県別府市大字鶴見 4333 番地  
大分県厚生連 鶴見病院（兼）健康管理センター  
中央検査部 臨床検査科 曾我泰裕  
電話番号（代表）：0977-23-7111